

貯法：室温保存
有効期間：3年

承認番号	22600AMX00906000
販売開始	2013年12月

血行促進・皮膚保湿剤

ヘパリン類似物質油性クリーム

ヘパリン類似物質油性クリーム0.3%「日医工」

Heparinoid Oil-Based Cream

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

- 2.1 出血性血液疾患（血友病、血小板減少症、紫斑病等）の患者〔血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕
2.2 僅少な出血でも重大な結果を来すことが予想される患者〔血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕

3. 組成・性状

3.1 組成

販売名	ヘパリン類似物質油性クリーム0.3%「日医工」
有効成分	1g中 ヘパリン類似物質 3.0mg
添加剤	濃グリセリン、スクワラン、軽質流動パラフィン、パラフィン、マイクロクリスタリンワックス、白色ワセリン、グリセリン脂肪酸エステル、ジブチルヒドロキシトルエン、エデト酸ナトリウム水和物、パラオキシ安息香酸メチル、パラオキシ安息香酸プロピル

* 3.2 製剤の性状

販売名	ヘパリン類似物質油性クリーム0.3%「日医工」
性状	白色のクリーム剤で、においはないかまたはわずかに特異なおいがある。
* 基剤の種類	油中水型の乳剤性

4. 効能又は効果

皮脂欠乏症、進行性指掌角皮症、凍瘡、肥厚性癬痕・ケロイドの治療と予防、血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患（注射後の硬結並びに疼痛）、血栓性静脈炎（痔核を含む）、外傷（打撲、捻挫、挫傷）後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎、筋性斜頸（乳児期）

6. 用法及び用量

通常、1日1～数回適量を患部に塗擦又はガーゼ等のにばして貼付する。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

	0.1～5%未満	頻度不明
過敏症	皮膚炎、そう痒、発赤、発疹、潮紅等	皮膚刺激感
皮膚 (投与部位)		紫斑

14. 適用上の注意

14.1 薬剤使用時の注意

14.1.1 潰瘍、びらん面への直接塗擦又は塗布を避けること。

17. 臨床成績

17.1 有効性及び安全性に関する試験

17.1.1 国内一般臨床試験

皮脂欠乏症患者30例、進行性指掌角皮症患者29例を対象にヘパリン類似物質ソフト軟膏0.3%の適量を1日2～3回、皮脂欠乏症は2週間、進行性指掌角皮症は4週間単純塗擦した一般臨床試験²⁾における改善率は、次のとおりであった。
副作用は認められなかった。

表 対象疾患別の改善率

対象疾患名	改善率（%）（改善以上）
皮脂欠乏症	96.7（29/30）
進行性指掌角皮症	72.4（21/29）

17.1.2 国内一般臨床試験

皮脂欠乏症患者30例、進行性指掌角皮症患者30例を対象にヘパリン類似物質ソフト軟膏0.3%の適量を1日2～3回、皮脂欠乏症は2週間、進行性指掌角皮症は4週間単純塗擦した一般臨床試験²⁾における改善率は、次のとおりであった。
副作用は認められなかった。

表 対象疾患別の改善率

対象疾患名	改善率（%）（改善以上）
皮脂欠乏症	93.3（28/30）
進行性指掌角皮症	70.0（21/30）

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

作用機序は明確ではない。

18.2 血液凝固抑制作用

血液凝固時間を延長し、血液凝固抑制作用を示す（ヒト³⁾、イヌ³⁾、ウサギ⁴⁾）。

18.3 血流量増加作用

水素クリアラランス法による実験で、皮膚組織血流量の増加を認めた⁵⁾、⁶⁾（ウサギ）。

18.4 血腫消退促進作用

実験的血腫の消退促進を認めた⁵⁾（ウサギ）。

18.5 角質水分保持増強作用

皮膚に対する保湿効果を有し（ヒト）⁷⁾、実験的乾燥性皮膚において角質水分保持増強作用を認めた⁶⁾、⁸⁾（モルモット）。

18.6 線維芽細胞増殖抑制作用

組織癒着防止に関する実験で、線維芽細胞増殖の抑制を認めた³⁾、⁹⁾（ウサギ）。

18.7 抗炎症作用

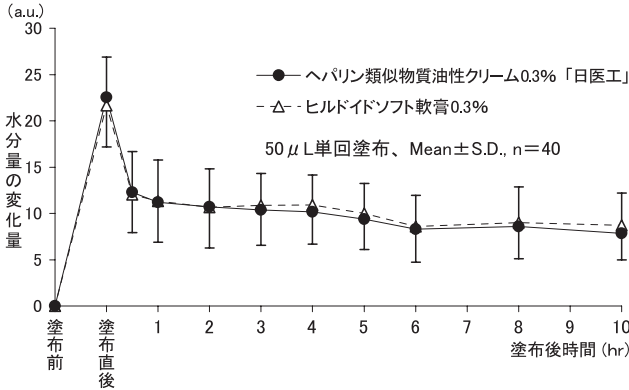
紫外線红斑抑制作用を有する¹⁰⁾（モルモット）。

18.8 生物学的同源性試験

ヘパリン類似物質油性クリーム0.3%「日医工」及びヒルドイドソフト軟膏0.3%を、健康成人男子の左右前腕屈側部にそれぞれ50 μ L単回塗布（半径2cm）し、塗布部位の皮表角層水分含有量（以下、水分量）を経時的に測定した。
薬物塗布前後における水分量の変化量－時間曲線下面積（AUC）を評価項目とし、90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log（0.80）～log（1.25）の範囲内であり、両剤の生物学的同源性が確認された¹¹⁾。

	判定パラメータ
	AUC ₀₋₁₀ （a.u.・hr）
ヘパリン類似物質油性クリーム0.3%「日医工」	98.2±35.1
ヒルドイドソフト軟膏0.3%	101.9±35.8

（50 μ L単回塗布、Mean±S.D., n=40）



水分量の変化量並びにAUC等のパラメータは、被験者の選択、水分量の測定回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：ヘパリン類似物質（Heparinoid）

性状：帯黄白色の無晶性の粉末で、においはなく、味はわずかに苦い。

水に溶けやすく、メタノール、エタノール（95）、アセトン又は1-ブタノールにほとんど溶けない。

22. 包装

25g×10本〔チューブ〕
25g×50本〔チューブ〕
100g〔瓶〕
500g〔瓶〕

23. 主要文献

- 1) 長島正治 他：臨床医薬, 1994；10（7）：1671-1682
- 2) 原田昭太郎 他：臨床医薬, 1994；10（7）：1683-1693
- 3) 中安国裕：東京慈恵会医科大学雑誌, 1961；76（2）：494-514
- 4) 石川浩一 他：外科, 1955；17（12）：849-854
- 5) 木戸裕子 他：基礎と臨床, 1996；30（3）：463-469
- 6) 土肥孝彰 他：薬理と治療, 2001；29（2）：127-134
- 7) 安藤隆夫 他：日本化粧品科学会誌, 1984；8（3）：246-250
- 8) 難波和彦：久留米医学会雑誌, 1988；51（6）：407-415
- 9) 間狩孝：日本外科宝函, 1959；28（9）：3757-3776
- 10) Raake W.：Arzneim-Forsch./Drug Res, 1984；34（4）：449-451
- 11) 宮脇寛海 他：診療と新薬, 2013；50（10）：961-967

24. 文献請求先及び問い合わせ先

日医工株式会社 お客様サポートセンター
〒930-8583 富山市総曲輪1丁目6番21
TEL（0120）517-215
FAX（076）442-8948

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

